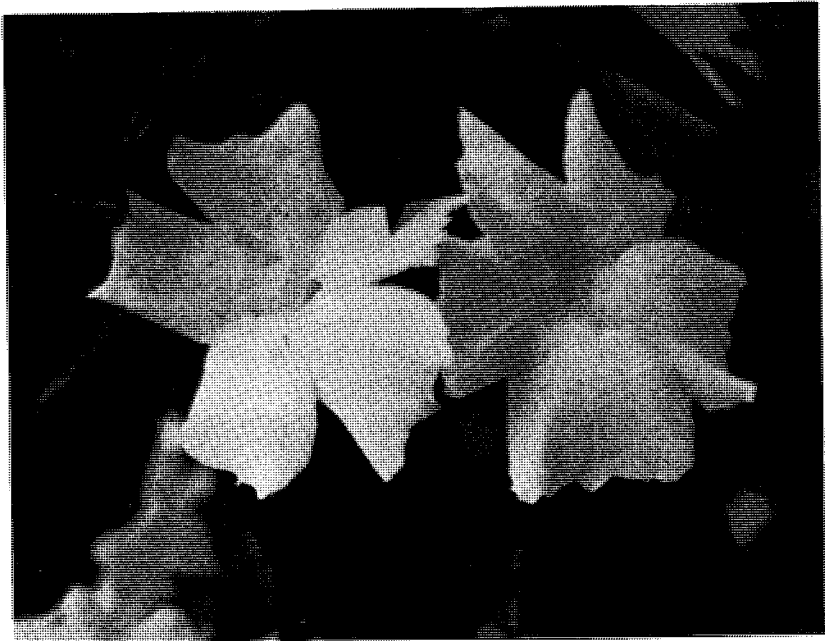


中島邦雄* 琉球の新外来品について (三)

Kunio NAKAJIMA : On the Newly Naturalized Plants Found from Ryukyus. (3)

5. カオリカズラ (新称) *Thunbergia fragrans* ROXB. キツネノマゴ科 (Fig. 6)

1966年の秋、北農植物園に植られている不明の外来品について調査する機会に恵まれた。それは、アフリカ、熱帯アジアに75種を産するヤハズカズラ属の初見のものであった。それ以来豊富な生品で観察した結果、日本ですでに園芸品として栽培されているインド原産の上記のものであった。*Th. alata* BOJER. に比べ、葉は厚く、殆んど平滑、濃緑色。雪白色花は(4-5)-11(-12)月と長期に渡って咲く。まだ、和名のないところから、種名に因んでカオリカズラと新称したい。

Fig. 6 カオリカズラ (新称) *Thunbergia fragrans* ROXB.6. スズメノトケイソウ (新称) *Passiflora suberosa* LINN. トケイソウ科.

1967年の夏、北農植物園で、一見してクダモノトケイソウより著るしく異なるものを得た。ここに記す1種は蔓生。茎は細く若い時に白粉をかぶり帯紫色。葉は厚く、卵形で時に3裂(まれに2裂)長さ5-10cm, 幅3.5-6.5cm, 平滑。花は直径1-2.5cmで花弁を欠き、こ

* 沖縄名護市宇茂佐111番地 111. Umosa, Nago-city, Okinawa

の属中最小。萼片はにぶい帯黄緑色、尖端は鋭頭、長さ10mm、幅5mm。果実は広だ円形、長さ1.5cm、幅10mm、白粉を帯びた暗青紫色。食用にならない。種子は暗褐色か黒色、凹凸あり長さ4mm、幅2mm。1果の種子数は10-40粒。園原氏によれば琉球林業試験場から北農に入ったというから、多分ハワイから研修生によって持帰られたものと推察する。ドミニカ原産の本種は日本にも入って無いようで、和名がないところから、果実が雀の卵を想起させるところからスズメノトケイソウと新に呼ぶ。

7. クサトケイソウ (アカミトケイソウ) *Passiflora foetida* var. *hispida* (DC.)

KILLIP. (Fig. 7)

Passion flower の英名で知られるトケイソウ属はアメリカの熱、亜熱帯に400種ほどを産し、中でもクダモノトケイソウは Passion fruit, Passion juice として親しまれている。筆者は1966年大東島に採集した際、北大東(Apr. 24)や南大東島(May 3)で、琉球から初のトケイソウ科の帰化品、クサトケイソウを採集した。大東島では、路傍、原野、二次林内やシナピロウ *Livistona chinensis* R. Br. (同島のピロウは、他の琉球各島のものと異なる)の林内などでよくみられた。また、同島では栽培されたものとは思えない。本種は種名の示す如く全草臭い。葉は心円形で3裂、側裂片は更に2-3浅裂、長さ3-7cm、幅4-6cm、やや薄質、縁ともに粗毛がある。萼は長さ3cm位、網状、クリのいがのようである。花卉は白色、基部は淡紫色。果実は小さく赤色、甘い。近藤菊二郎：布哇の花五百種(Vol. 6, Aug. 31, 1956)には、本種に Love in a mist (霧の中の恋)とあるが、この英名はもともとクロタネソウ(黒種草) *Nigella damascina* L. に用いられている英名である。沢嶋安喜氏によれば、かつて沖縄本島中頭(北谷、嘉手納)でよく本種を見たというが、現在は見当らない。沖縄本島のものは多分一時的帰化であろう。図7は1966年3月3日に南大東島で撮影したもの)ちなみに初島・天野「改訂沖縄植物目録(1967, p.76)によれば「栽」とあるが、大東島や沖縄では完全に帰化品である。



Fig. 7 クサトケイソウ *Passiflora foetida* var. *hispida* (DC.) KILLIP.